

第6回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会（書面協議結果）

【意見】

広域観光、ア観光振興の推進において、大空町観光振興一般事務費の予算減額について、どのような理由か知りたい。町全体の予算があると思うので、説明願いたい。

（回答）・・・大空町総務課

予算額については、平成23年10月実施の大空町総合計画のローリング結果を基に修正したもの。

平成25及び27年度は7,946千円、26年度は5,864千円の減額となっている。

その理由については、

観光振興活性化業務委託費4,346千円、
藻琴山温泉芝桜公園環境整備事業費2,280千円、
観光案内看板修繕費704千円、
印刷製本費など616千円が、それぞれ24年度で終了するため。

一方、観光リーフレットは隔年で作成することから、当該年度である26年度は前後比増額となっている。

なお、上記とは、国費100%措置の時限事業である。

観光振興一般事務費については以上であるが、観光振興に関する事業としては、例えば、

「観光情報クロスメディア事業（1,962千円）」、
「ひまわり作付事業（4,004千円）」、
「朝日ヶ丘公園管理費（13,752千円）」、
「メルヘン観光交流センター管理運営費（5,020千円）」など、
多様な施策を展開していることをご承知おき願いたい。

【意見】

網走市でも人口減少・少子高齢化の進行に加速がつき、住民の社会不安が日増しに大きくなっています。

このビジョンの趣旨・目的は理解できますが、二市町だけの共生では自ずと限界があり、住民の立場から考えると、そう大きなメリットは感じられません。

今後の国と地方のあり方を含め、特に若い世代の住民が生まれ育ったこの地域で、仕事を得て生活していける仕組みを真剣に考えていかななくては、町自体も生き残りは難しいのだと思います。

まさにこのビジョンで圏域の現状や課題が浮き彫りにされていて、その上に立った圏域の将来像が実現できれば理想なのですが、どうも悲観的にならざるを得ないのが正直な感想です。

(回答)・・・網走市企画調整課

二市町だけの共生では自ずと限界があり、あまりメリットを感じられないとのご意見ですが、網走市と大空町による共生の前段では二市町以外の周辺町村にも参加に関する呼びかけを行い協議した経緯がございます。

しかしながら、結果、網走市と大空町の二市町になったという状況があり、今後も共生の更なる広域化を目指していきたいと思っておりますが、過去の経緯を考慮すると、なかなか難しいと言わざるを得ません。

網走市と大空町による二市町による共生においては、両市町の絆を深めながら少しずつではありますが、「公共施設利用料の優遇措置の共通化」、「職員研修の共同実施」など、進めてきております。

ご意見にあるような住民にとっての大きなメリットとは言えないかもしれませんが、できることから協議を進めておりますので、委員皆様のご協力とご支援をお願いいたします。